

健康診断の検査項目について

Vol.18

健康診断で行われる検査項目について、その働き・基準範囲・疑われる疾患などを解説しています。今回は最終話となります。

【胃がんリスク(ABC) 検診】

ペプシノゲン検査とピロリ菌検査の結果を組み合わせ、胃がんの危険度を判定する検査です。

- ペプシノゲン検査：胃の消化酵素（ペプシノゲン）の血液中の濃度を測定し、胃粘膜の老化（萎縮）を調べる。
- ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査：胃がんの原因などになるピロリ菌感染の有無を血液や尿などで調べる。

		ヘリコバクター・ピロリ検査	
		(-)	(+)
ペプシノゲン検査	(-)	A群 (健康な胃粘膜)	B群 (少し弱った胃粘膜)
	(+)	D群 (かなり弱った胃粘膜)	C群 (弱った胃粘膜)

藤枝健診センター健診検査課主任 高田 雅紀

Vol.2 オプション検査のご案内<がんに関する検査>

～当協会各施設での健診、巡回健診で受けられます～

総合健診センター・ヘルスポート、藤枝健診センター、浜松健診センターの各施設での健診及び巡回健診（出張健診）で受けられるオプション検査をシリーズで紹介しています。今回は、がんに関する検査です。

腫瘍マーカーセット

男性 (CEA・AFP・CA19-9・シフラ・PSA) 女性 (CEA・AFP・CA19-9・シフラ・CA125)

がん発見の手がかりとなる検査です

検査方法 採血のみ

がん細胞が産生する特殊な微量成分を測定することで、体内に潜んでいるがんを発見するための検査です。簡単に調べることができ、良性病変でも上昇したり、早期がんの場合は上昇しない場合があります。一度受けて基準値以下でも、その後定期的に測定し、上昇しないかチェックすることをおすすめします。

CEA	最も代表的な腫瘍マーカーで大腸がんをはじめとする消化器がんのほか、肺がんや乳がんなどで上昇します。高齢者や喫煙・炎症性疾患などでも高値になります。
AFP	肝細胞がんの代表的なマーカーです。卵巣や精巣の胚細胞がんでも高くなります。肝硬変や妊娠でも上昇します。
CA19-9	膵臓がん・胆嚢がん・胆管がんなど、消化器系がんが高くなるとされています。
シフラ	肺がんのうち、扁平上皮がん・腺がんなど非小細胞がんが高値となります。特にタバコと関係の深い扁平上皮がんでは、早期から上昇するため有用です。
PSA (男性)	臓器特異性の高いマーカーで、前立腺がんや前立腺肥大症で高値となります。
CA125 (女性)	卵巣がんのマーカーですが、肝がん・膵臓がん・子宮内膜がんでも高値となります。子宮内膜症や月経・妊娠・肝硬変・膵炎でも上昇します。

PSA検査（前立腺特異抗原検査）

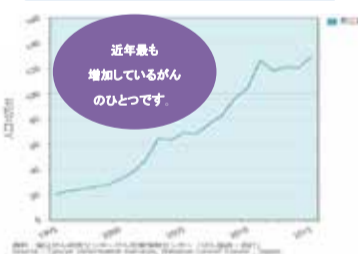
前立腺肥大や前立腺がんの早期発見が可能です。前立腺がんや前立腺肥大は特有の初期症状がないため、早期発見に有効です。炎症や射精、尿閉等でも上昇します。

検査方法 採血のみ

こんな方におすすめ

- 50歳以上の男性
- 排尿時に違和感がある方
- 前立腺がんと診断された血縁者がいる方

前立腺がんの罹患者数年次推移



喀痰細胞診検査

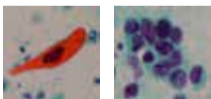
タバコに関係の深い肺がんの早期発見が目的です

『1日に吸うタバコの平均本数』×『喫煙年数』を喫煙指数といいます。喫煙指数が600以上の方や、ご自身が喫煙しなくてもご家族がタバコを吸われる方におすすめします。

検査方法と注意点 専用容器をお渡しして、ご自宅で3日分の喀痰を採取していただきます。

起床時、食事前の採取が理想です。普段から痰が出ない方は、なかなか3日分の喀痰が出せない場合もあります。またご提出いただいても、痰ではなく唾液や鼻汁のみの場合は、検査材料不適といった結果になります。

肺の異型細胞



当協会では、特定保健指導を遠隔面接でも受けられます

当協会では、新型コロナウイルス感染拡大に対応し、昨年12月から情報通信技術（Google Meet、Zoom）を活用した特定保健指導の初回面接を始めました。

従来、保健師等が事業場へ訪問し特定保健指導の初回面接を実施していましたが、対象者が忙しく訪問する日程との調整が困難で指導を受けられないケースや遠方で訪問が困難なケースがありました。

遠隔面接により、これまで指導を受けられなかった対象者やエリアでも実施可能になりました。ネットワーク環境が整っていれば、どこでも初回面接を実施できる効率的な方法です。今後も、生活習慣改善に向けた行動につなげられるように効果的な指導に努めていきます。



静岡県予防医学協会 総合健診センター ヘルスポートだより

人間ドックオプション検査の選び方 ～動脈硬化が気になる方へ～

ヘルスポートでは、人間ドックの基本項目にプラスして様々なオプション検査を選択できます。気になる症状などからお選びいただくことで、お客様にあった検査項目が自由にカスタマイズできます。

今回は、動脈硬化が気になる方へ、おすすめのオプション検査をご紹介します。



このような症状やデータの異常、生活習慣はありませんか？

- 胸が苦しい時がある
- 脈が乱れたり動悸がある
- 血液検査等に異常がある
(高血圧、糖尿病、脂質異常症など)
- 肥満、メタボの方
- 喫煙されている方



<人間ドックの基本検査>

血圧、血液検査、安静時心電図検査、眼底検査

- ★血圧→動脈の血管壁に与える血液の圧力を示します。血圧の高い状態が続くと動脈硬化が進行するリスクが高くなります。
- ★血液検査→血糖、脂質などを調べ、動脈硬化に関係性のあるデータを得ることができます。
- ★心電図検査→脈の乱れ、心臓のリズム異常などの不整脈の他、狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患、心肥大、心筋症などの心筋の病気の発見に有用です。
- ★眼底検査→眼底の血管は、体の中で唯一直接観察できる血管で、動脈硬化の程度もわかります。



<オプション検査の例> ※詳しくはドック申込み時にお問い合わせください。

動脈硬化度測定



両手足の血圧を同時に測定し、動脈の硬さや狭窄の有無を調べます。動脈の硬さは、心臓から押し出された血液による拍動が手足に届くまでの速度から、血管の狭窄は、上腕と足首の血圧の比からわかります。

頸部IMT検査



血管壁の厚さ（IMT：内膜中膜複合体）や血管内プラーク（ふくらみ）を調べます。頸動脈の血管は簡単に見ることができ、全身の動脈硬化の進行を予測することに適した検査です。

負荷心電図 (マスター・トレッドミル)



運動による負荷を心臓にかけると、安静時心電図では判定が困難な狭心症・心筋梗塞といった虚血性心疾患や不整脈の診断に有用です。

LOX-index (ロックスインデックス)

LOX-indexは、血液中の動脈硬化の引き金となるLOX-1と酸化変性LDL(LAB)という2つの物質を測定する検査です。この値が高いと、将来の脳梗塞発症率が3倍、心筋梗塞発症率は2倍高いという報告が出ています。病や脳卒中といった命にかかわる病気の危険性が高まります。



内臓脂肪測定検査 (メタボCT)

X線でお腹周りの皮下脂肪面積や、内臓脂肪面積を測ります。内臓脂肪面積はメタボリックシンドロームの指標となり、100cm²以上になると発症の引き金とも言われています。また、高血圧・高血糖・高脂血症が重なることにより動脈硬化を引き起こし、心臓病や脳卒中といった命にかかわる病気の危険性が高まります。

